副詞

【三三〇】一つの動詞を、二つ以上の副詞で修飾することがある。

かねてたび〳〵見た。きつと早く廣まる。近々少々出來る筈。

毎日二度來る。家を高くあかるく手廣に作る。

【三三一】一つの形容詞を、二つ以上の副詞で修飾することがある。

まだなか〳〵寒い。まず大抵よろしい。

【三三二】一つの副詞を、二つ以上の副詞で修飾することがある。

もつとずつと早くしろ。

○語を隔てゝ、動詞、形容詞、副詞を修飾することがある。

かね〳〵其事を聞いて居る。暫く時節の到來するを待つ。

よほど出來がよい。非常に其人を善く云う。

【三三三】句や文を修飾するもの、

決して疑うな。實にそうなれば何より嬉しい。

いつそ、やめることゝしよう。どうか、勝つ工風わあるまいか。

【三三四】體言を修飾するもの、

はるか、上の方に見える。　ちと、右え片寄れ。　もつと澤山の人、

一番上等の品、　一度に五人を限る。

○外の語の意味を受けて、下の動詞、助動詞を修飾するものがある。

それならばそうしよう。　それわこうなる、右が左になる。

これであろうか、それわそうだ。　約束わこうだ、半分金を拂うのだ。

○名詞、數詞、漢語を副詞とするもの、

昔あつた。　今日來る。　明日行こう。　一月過ぎる。

幸い出會つた。　ひとり行く。

盃を、三つ重ねる。　世の中、よろづよし。　千萬かたじけない。

極よろしい。　格別尊い。　大抵出來た。　一切知らぬ。

名詞漢語の下に、「に」又わ「と」を添えて、副詞とするもの、

常に思う。　誠に嬉しい。

別に考える。　急に行く。　實にうつくしい。　專一に思う。

不意と消える。　樂々となる。　斷然と行う。

形容詞を副詞とするもの、

別に考える。急に行く。實にうつくしい。專一に思う。不意と消える。樂々となる。斷然と行う。

形容詞を副詞とするもの、

善く改まる、早く走る、嬉しく思う、ひどく強い、

動詞、又は動詞を繰返し、又わ、其下に「に」又わ「て」を添えて、副詞とするもの、

詰り分らぬ、餘り多い、みだりに作る、頻りに呼ぶ、

ますます榮える、見す見す取られる、重ね重ねありがたい、染み染み話す、

代り代りに出る、離れ離れになる、

すべてやめる、さだめて喜ぼう、決して出來ない、

句を副詞とするもの、

やゝともすれば逆らう、顏に似合わずやさしい、

物が見えぬほど暗くなつた、路をあるきながら考える、

○副詞、又わ、其語根を、名詞のように用いることがある。

暫くの間、聊かの事、僅かの人、話わ慥かである。

接續詞

【三三五】句、又は、文を繋ぐもの、

讀み通し、さて、寫し取る、　山を越え、また水を渡る、わたしも行こう、たゞし、時刻がおくれよう。　大勢、客が來られた、もつとも、上客わ華族であつた。

○種々な語句を接續詞とするもの、

歌をよみ、そのうへ、詩をも作る、　學問もあり、そうして、智慧もある。　その事わ聞いた、しかるに、知らせがない。　わたしわ出かける、ついてわ、あとの事を賴む。　脊わ低い、しかしながら、力わ強い。　舟を漕ぎ出した、そうすると、風が吹いて來た。　何も恐れる事わない、とわ云うもの丶、用心しろ。　雨が降つて來た、それのみならず、日も暮れた。

語句を略して接續詞に用いるもの、

人が集まつた、(そう)して、演說が始まつた。　品が出來あがつた、(それ)で、人に見せた。　空が晴れる、(そう)すると、風が吹く。　しくじつたろう、(それ)だから、よせと言つたのに、

雨が晴れた、(晴れた)が、まだ雲わ收まらぬ。　智慧わある、(そう)だけれども、學問わない。　たいそう力がある、(それ)でも、角力取にわ勝たれまい。　敵軍を破る、(それ)のみならず、其大將まで生捕つた。　奉こなし、